



新年の挨拶



岐阜勤労者医療協会 理事長 岩井 雄司

昨年、「北のミサイルと少子高齢化を国難とした解散総選挙(10月、その実は森加計丁寧な説明出来ません解散)が終わってみれば、早速財務省が社会保障カットを大々的に提案して来ました。医療、介護での国民負担がめじろ押しです。

他方で「国連での核兵器禁止条約採択(7月)」、「その推進団体ICANのノーベル平和賞受賞」と言う快挙があり、授賞式に国内外のヒバクシャと広島／長崎市長が招かれています。歴史は進歩しているなあ実感し、念頭にあたり、「ヒバクシャ国際署名」、「9条改憲NO!3000万人署名」、「社保署名」等推進を決意します。



一般社団法人
ファルマネットぎふ 代表理事 青山 栄司

新年、明けましておめでとうございます。しいのみセンター薬局は、昨年2月に岐阜県で初めての健康サポート薬局に認定されました。また、有限会社ファルマネットぎふは、昨年11月1日をもって一般社団法人(非営利型)ファルマネットぎふへと法人変更を行いました。

この法人変更の意義は、所有形態が従来の個人所有から医療法人・福祉法人と同様の集团的所有へと変更になること、加えて利益を追求しない組織形態となることです。非営利型の一般社団法人であるため、地域に対しての非営利事業も行いやすくなります。引き続き、地域の健康づくり、安心して暮らし続けられるまちづくりを健康友の会をはじめ近隣医療機関や地域の諸団体とともに奮闘したいと思います。

知って得する「介護保険制度」コーナー

訪問リハビリを受けましょう!

介護保険相談センターすこやか ケアマネジャー 岩原 田鶴子

今回のお話は、訪問リハビリについてです。リハビリという言葉の意味を知ると、奥が深いと感じ入ってしまいます。リは〈再び〉、ハビリは〈資格を与えられる、復権する〉と言う意味で、人間らしく生きる権利を回復すると言う、全人間的復権を表しています。この意味にはそれだけにとどまらず、〈見捨てない、あきらめない〉と言う意味合いも含まれています。

介護の現場では、脳卒中後や骨折後、大病を患った後の廃用(筋力低下)のリハビリを退院後や通院リハビリが終了した方などを対象に自宅に訪問し行われています。

また、ガンのターミナルの方も、最期まで「生きる」を実感できるように(他にもいろいろな目的はあります。)リハビリに取り組みます。

リハビリとは生きることを約束する、素敵な行為だと思いませんか?

ところが、厚労省はこの大事なリハビリを、医療費削減のために診療報酬の切り下げや、切り捨てを行って来ています。「死ぬという事か!」患者さんたちが撤回の署名を集めて行動を起こしています。リハビリはただ単に、身体機能を回復するだけではなく、社会に復帰する目的もあるので切実です。

当法人では、みどり訪問看護ステーションから訪問リハビリを行っています。4名のセラピストが配属されています。どうぞ、ご相談ください。



みどり病院 ☎058-241-0681 (医療福祉相談員まで)

Dr.Kの
漢方薬講座

よく使われる漢方薬のご紹介

牛車腎気丸(ゴシャジンキガン):しびれ、腰痛、浮腫などの治療

華陽診療所医師 粕谷 志郎



加齢に伴い下半身の衰弱が目立つようになります。下肢のしびれ、腰痛などが出現する方も多いようです。こうした時に牛車腎気丸を試してみるのも良いかと思えます。

牛車腎気丸は厳用和(げんようわ)の著した済生方(さいせいほう)に登場する処方です。1253年の著書で、800年近い歴史があります。日本の漢方治療にも大きな影響を及ぼしています。厳氏は中国廬山で活躍した医師で古典と自らの実践を合わせて多くの方剤を確立しました。この方剤も1800年前に作られた八味地黄丸に、いづれも腎機能を高める牛膝(ゴシツ)と車前子(シャゼン)を加えたものです。高齢の人、泌尿生殖器・下半身の衰え、冷え、水分の停滞などに効果があります。

しびれの治療はなかなか決め手を欠くことが多いようです。ビタミンB12製剤が処方されることが多いのです。

が、効果のほどは確かではありません。腰部の脊柱管狭窄症は神経の圧迫により、痛みやしびれが出て、短い距離でもしばしば休まないと歩けません。手術によって強い圧迫を取り除き治療することがありますが、根治とはいかない場合が多いようです。血行を改善する内服薬で適応のあるものも、なかなか効果的とはいえないのが現状です。漢方では、牛車腎気丸が第一選択となります。以前に紹介しました附子(ブシ)がすでに入っている処方ですが、さらに附子末を追加すると効果が上がります。附子末0.5gと牛車腎気丸1包を一日3回の服用となります。



ちよつと怖い
食と農のはなし

蜂蜜6割 基準超農薬 全サンプルで検出!

ネオニコチノイド系

日本各地の蜂蜜やミツバチ、さなぎが、ネオニコチノイド系農薬に広く汚染されているとの調査報告を、千葉工業大学の亀田豊・准教授(環境化学)らのグループがまとめました。

ネオニコチノイド系農薬は、タバコに含まれるニコチンに似た物質を主成分とする農薬の総称で1990年代から殺虫剤など様々な用途で使われ、神経の働きを阻害して効果を発揮するものです。日本では家庭菜園用にも普及しています。しかし、各国で多発するミツバチの大量死や群れの消滅との関連が指摘されており、EUの欧州委員会は2013年にクロチアニジンなど3種類の農薬を当面使用禁止にすることを決めています。



今回の調査は国産28製品の蜂蜜、38地点のミツバチ、7地点のさなぎについて、クロチアニジン、ジノテヒランなど6種のネオニコチノイド系農薬を分析。蜂蜜では6割超で国の基準を上回り、製品だけでなく養蜂・野生ともに高濃度で汚染が検出され、蜂蜜はその他の農薬に適用される国の暫定基準を18製品で超えており、農薬の影響が全国的に広がっていることが認められました。

蜂蜜は日常生活で食べる量であれば人の健康にすぐに影響が出るレベルではないのですが、日本ではネオニコチノイド系農薬の残留基準が定められていません。国の内外で菜園や花壇の開花や収穫に必要な受粉に影響が出ていると指摘する研究者が増えています。使用する場合にはくれぐれもご注意ください。